

年間600万人死亡の原因は、 歯周病も悪化させる

茨城県歯科医師会では「禁煙支援・相談歯科医」制度立ち上げにより、会員の診療所で禁煙支援を実施しています。

患

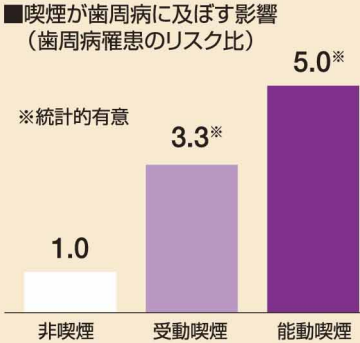
者さんに「タバコを止めないと歯周病は良くならないですよ」と言う、「そんなの関係ないだろ?」と言われる。

しかしタバコががんの原因になっている事を疑う患者さんはいません。

WHO(世界保健機関)は、2012年は喫煙が原因で約600万人が死亡する見通しで、そのうち60万人は受動喫煙によるものと推計。この傾向が続けば、21世紀中に喫煙により10億人が死亡することになると警告しています。日本でのタバコによる死亡者は年間10万人となります。(全国の交通事故死者数が4611人)

タバコの影響は口の中に出ないのでしょうか? 口腔がん以外にはどんなことが起こるのでしょうか。

2004年の「喫煙と健康影響」



に関する米国公衆衛生総監報告書では、膨大なデータを基に喫煙と歯周病に原因的な因果関係があると明言されています。

上のグラフは能動喫煙(自ら吸うこと)では、タバコを吸わない人に比べ歯周病に5倍なりやすく、受動喫煙(他人のタバコの煙を吸うこと)でも歯周病に3.3倍なりやすい事を示しています。がんと同じように他人のタバコの煙で歯周病が悪くなるのです。ではなぜタバコで歯周病が進むのでしょうか。

- ①細菌の感染・侵襲
- ②宿主の免疫・炎症反応
- ③結合組織と骨の代謝
- ④遺伝子多型による影響

があげられ、簡単に言うと、悪い細菌が増加し、白血球の働きが悪くなり、歯肉の血流量が減少し酸素不足になり、結果として歯肉と歯の根がく付きにくくなるのです。

喫煙習慣が無ければ、アメリカ国民の程度以上の歯周炎の50%が予防できたとする報告もあります。

そのうえ、歯周病は歯の抜ける原因のトップです。歯が少なくなると健康長寿に危険信号がともります。

喫煙により貴重な歯を失わないようにお願いします。

●次回掲載予定日は10月18日です。 茨城県歯科医師会は設立100周年、これからも皆様の健康のため活動します

茨城新聞2012/08/1

